



シリーズ 最終回

産学公連携コーディネータに聞く

中小企業の技術開発や製品開発の過程でさまざまなサポートをする都産技研の「産学公連携コーディネータ」。日頃受ける相談や、サポート内容の実際をご紹介します。

野々村 誠 コーディネータ **本部**



Profile

1971年東京理科大学工学部工業化学科卒業。大学院を経て、1973年東京都立工業技術センター、都産技研にて35年間、公害防止や環境技術の研究開発、技術評価、相談に従事。退職後は「環境技術評価研究所」を設立。企業における環境技術開発の推進、公害防止技術の指導等の活動を行っている。2009年より産学公連携CD。環境管理技術、環境分析(大気、水質、土壌)の研究開発と技術評価が専門。

野々村CDの担当曜日
毎週金曜日9時～17時

産学公連携のしくみづくりと都産技研OB時代の体験をベースに、中小企業をサポート

産学公連携コーディネータ(以下、CD)に着任したのは平成21年ですが、私は都産技研のOBで、東京都の労働経済局商工部への出向時に産学公連携のしくみづくりに携わっていました。都産技研の中に産学公連携CD室を設置し、5名のCDを置いたのもその一環です。退職後、自身がCDを引き受けたのも、産学公連携の背景や経緯を知っているからお役に立てると思ったからです。

都産技研時代の経験は、CDとしての仕事に大いに役立っています。大学時代は排気ガスを専門としていましたが、都産技研ではめっき工場で使用している、人体に有毒なシアン化合物について研究論文を多く発表するなど、排水の問題にも深く携わりました。平成14年に施行された土壤汚染対策法に絡んで、土壤汚染についても研究しています。大気・水・土壌、それぞれの汚染浄化技術に携わり、論文発表もしているので、どのテーマについ

ても対応できることがCDとしての私の強みだと思っています。

また、CDとして肝心だと思っているのは、相談内容の見極めです。さまざまな相談がありますが、取り組み内容や産学公連携につながれるかなどを咀嚼して見極めることが私のモットーです。内容によっては技術相談で解決する場合がありますので、必ずしも産学公連携につなげる必要はなく、相談にいらした方にとって本当に必要なことは何かを一緒に考えて提供することを心がけています。

中小企業の皆さんは、少ない人数で仕事をこなしており、時間にどうしても追われてしまうので、ネットワークを張って新しい事業を展開することには難しい部分もあると思います。そうした皆さんに情報や技術を提供し、課題解決のお手伝いをしていくことが、都産技研の仕事であり、我々CDの仕事でもあります。

●事例紹介 【産学連携の例】東京都の助成事業を活用した船舶の排水処理装置の開発

東京都では、試験や開発のための初期費用を助成する事業を行っています。この事業を利用することにより、産学共同での開発が取り組みやすくなりました。例えば、輸送機関に使用されるトイレを製作している都内の会社から、船舶の生活排水処理装置の開発について相談があり、この事業を活用して排水処理の研究を行っている大学とのマッチングを行いました。なお、この会社からは船舶から出る生ごみの処理装置の開発についても相談があり、共同開発する大学を調査して大学との共同研究をコーディネートしました。



相談→共同研究までの経緯

- 平成24年4月 輸送機関に使用されるトイレを製作している都内の会社が、「船舶の生活排水を処理する装置を開発したい」という相談で来所。
- 平成24年6月 排水処理を行っている大学を調査し、コンパクトな排水処理装置を開発している大学教授を紹介。
- 平成24年8月 東京都の助成事業を利用して平成24年度に共同研究を実施。
- 平成25年度～ 企業の独自資金で引き続き同大学と共同開発を行っている。

野々村 CD 研究開発にかかる初期費用を助成してくれるこのような事業によって、産学連携が実現した例が多くあります。こうした支援内容があることをぜひ知ってほしいですね。

Message 中小企業の皆さんへ



他のCDも言っていますが、中小企業の皆さんには産学公連携CDをどんどん活用していただきたいですね。どんな相談でもOKです。新しい技術開発、大学や他の企業との共同研究のご希望にも応じます。都産技研は、都内の中小企業の創出・振興を図るため、さまざまな技術分野の職員や施設・設備・装置を配備して試験や研究、技術相談に対応しています。CDの専門分野も幅広く、またお互いに情報交換していますので、ご相談内容に最適なCDが対応します。ご相談をお待ちしています。